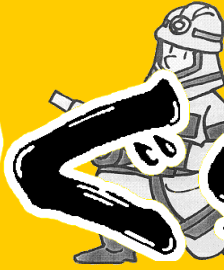


ひのみやぐら



No.31
平成 25 年 3 月
発行
鶴岡市消防団藤島方面隊
広報委員会



主な記事

- ◎方面隊長あいさつ
- ◎藤島方面隊『1年のあゆみ』
- ◎特集
自主防災組織について
- ◎藤島分署よりお知らせ
- ◎梯子乗り・纏振り隊
- ◎女性消防隊より
- ◎班紹介『下通』『表小路』

消すまでは 出ない行かない 離れない
(平成24年度 全国統一防火標語)



方面隊長

とがし まさあき
富樫 正明

鶴岡市消防団藤島方面隊は、現在総員四百九十六名で構成されております。消防団員は、各自生業、家庭を持ちながらの消防団活動という事で、ご家族の皆様やお勤め先等々には大変ご負担をかけていると思えますが、皆様のご理解とご協力により何とか消防団活動を遂行できる事を心より感謝いたしております。近年は、地震や洪水そして竜巻といった自然災害が脅威となっております。いつ発生するかわからない災害から地域住民の生命、身体、財産を守るという使命を持つ消防団としては、地域との緊密な連携をさらに強化して「自分たちの地域は自分たちで守る」という土気のもと団員一丸となって防災活動、予防消防活動に邁進して行きたいと思っております。

今後とも地域の皆様のご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

方面隊長
あいさつ

鶴岡市消防団藤島方面隊 一年のあゆみ



4/22
**初任消防団員
研修会**

藤島体育館を会場に初任消防団員研修会が開催され、入団3年未満の団員を対象に30名が参加しました。藤島分署員の指導の下、普通救命講習を全員真剣な眼差しで受けた後、藤島方面隊幹部からは訓練礼式や器具操作の基礎の指導を受けました。また、『梯子乗り・纏振り隊』の演技披露も行われました。

この研修会で学んだ事を土台にし、消防団員として、一層成長することが期待されます。



5/27
**藤島方面隊
春季消防訓練**

心身清まる晴天と薫風の下、藤島方面隊全団員が参加し、藤島体育館駐車場を会場に春季消防訓練が開催されました。指揮者の力強い掛け声で小隊、中隊に分かれての基礎動作訓練が行われ、その中でも今年度より優秀な分団を表彰する新しい取り組みも行われました。また、ポンプ操作展示や一斉放水が披露され、その天にも届きそうな勢いは、まさに藤島方面隊の消防力と士気の高さの表れでした。最後に訓練に対する講評や訓示に引き続き行われた表彰伝達では、優良団員と永年勤続された団員、元団員が表彰され、その功績が称えられました。



7/8
**藤島方面隊
操法大会**

初夏の爽やかな風が吹く中、藤島体育館駐車場を会場に自動車ポンプ1台、小型ポンプ18台が集結し、藤島方面隊操法大会が開催されました。出場班は、この日のために数ヶ月前から昼夜を問わず徹しい訓練を重ね、「火災現場で早く、安全に、確実な消火活動を行うための基本動作」を習得してきました。当日は、多くの団員が注目する中、緊張の面持ちを浮かべながらも、今まで訓練してきた成果を遺憾なく発揮しようと、堂々と機敏な動きで操法を繰り広げました。



操法大会の結果



■ 小型ポンプの部

1位 楳 (3-4-3)

得点 75・75点

時間 47・27秒

2位 八色木下区 (4-1-2)

得点 73・25点

時間 50・85秒

3位 新町 (1-1-2)

得点 69・00点

時間 51・03秒

4位 下通 (4-2-4)

得点 67・25点

時間 49・91秒

5位 中組 (4-3-2)

得点 65・75点

時間 54・89秒

■ 最優秀操作員賞

《自動車ポンプの部》

指揮者 高橋満広表 小路

《小型ポンプの部》

1番員 齋藤宗平 (八色木下区)

2番員 小池克彦 (新町)

鈴木憲一 (下町)



真夏の晴天の中、庄内各地から選ばれた自動車ポンプ10台、小型ポンプ13台が三川町の県消防学校に集結、消防操法の技術を競い合いました。我が方面隊からは、自動車ポンプの部に表小路班、小型ポンプの部に楳班が代表として出場。その結果、小型ポンプの部で、見事4位入賞を果たしました。楳班は、6年前の同大会にも出場しましたが、その時は入賞出来ず、今大会ではリベンジを果たしての入賞となりました。自動車ポンプの部は、残念ながら入賞は逃しましたが、約3ヶ月間の訓練成果を遺憾なく発揮し、堂々たる操法を披露しました。



8/5 山形県消防操法 庄内支部大会



9/2 藤島地域 総合防災訓練

今年度の防災訓練は、昨年引き続き、各分団毎にそれぞれの地区で実施されました。

- 第1分団 (中 町)
 - 第2分団 (谷地興屋)
 - 第3分団 (無 音)
 - 第4分団 (下 通)
 - 第5分団 (上 荒俣)
- 今回は、第1分団での訓練内容について紹介します。
- 第1分団 (藤島地区) の訓練は、地震による一部の家屋の倒壊や火災が発生したという想定のもと、笹花公園及び藤島庁舎駐車場を会場に総員100名が参加して実施されました。

はじめに、中町町内会の方々による避難訓練が行われ、消防団員との連携のもと、近所の方々への声掛け、誘導、避難者の人数報告等が実施されました。続いて、応急手当・心肺蘇生法が行われました。ケガ人や意識不明者が出た場合の対処方法について、女性消防隊の指導による実習を行いました。

初期消火訓練では、水消火器を使用した消火訓練が行われ、ペットボトルを標的にした、消火活動を体験していただきました。

火災防ぎよ訓練では、近隣住民の方が、火事を発見、火事ぶれ、通報と警鐘打鳴を行い、他の住民の方々からは、消火栓を使用した消火訓練を行っていただきました。また、消防団員による消火訓練では、自動車ポンプおよび小型ポンプを使用した中継放水等が行われ、各班の消防団員の連携による消火活動が行われました。

交通規制訓練では、消火・救出活動が円滑に行われるよう車両誘導が行われ、混乱なく、防災訓練を実施することができました。

給食訓練では、町内会の方々によるおにぎりの配布が行われ、訓練参加者に試食していただきました。

訓練終了後に行われた検討会では、町内会の方々と消防団員との意見交換が行われ、自主防災組織の活動について、日頃の準備の大切さを再認識していただきました。

災害発生時には、地域住

民の方々と消防団員との連携による活動が重要となりますが、この度の訓練では、町内会の方々を中心とした消火活動が展開され、参加者の防災意識の向上ならびに消防団員の技術向上が図られるものであります。訓練多用途にも関わらず、訓練にご参加をいただきました地元町内会の皆様に、心から感謝申し上げます。心から有事の際は、訓練での経験をお役立ていただきたいと思います。

肌寒く時折吹雪く中、新春恒例の藤島地域消防出初式が、藤島公民館前を会場に行われました。

出初式に先立ち、公民館大ホールにおいて、藤島地域の無火災と安全を願い、神事が執り行われました。その後、会場を公民館前に移し、祝賀放水や梯子乗りが披露されると、ご参観の皆様から拍手と歓声が上がりました。

また、婦人防火クラブと女性消防隊の協力の下、市民の方々にこんにやくが、お子さんにはお菓子が振舞われました。

最後に分列行進が行われ藤島方面隊の心意気を示すと同時に、市民の方々の更なる防災意識の高揚に繋がったものと思えます。



1/20 藤島地域 消防出初式

町内会自主防災組織について ～ 我が町内会の取り組みを紹介します ～

谷地興屋 町内会

町内会長 池田 勝

我が町内会の自主防災隊員のほとんどが消防団OBで構成されており、消防防災に対する意識・知識は大変高いものがあります。

年間を通しての活動は町内会、消防団との有機的な繋がりで行動しており、冬期間に於いては、貯水槽、消火栓など消防施設の除雪や点検等の手伝い、また、無人家屋の雪下ろしなども行っており、九月に行われた第二分団の防災訓練は当町内会で行われましたが、隊員が誘導しての避難訓練や消火器訓練、消火栓による初期消火など存在感のある活躍でありました。

隊員は救急救命や自然災害への対応等、専門的な知識、技術を習得するために年間を通しての講習会に参加したり、また、地震や暴風雨の直後には集落内を見回りするなど、「地域の人は地域で守る」を理念に日々活動しており、住民の安全、安心のために、これ

からも頑張ってもらいたいと思います。

野田目 町内会

町内会長 菅原 憲生

藤島地域の自然災害は、一部水害があるものの、本当に少なくて幸いであり、良い地域であると思っています。

以前、私は震災により福島県から鶴岡市に避難した方とお会いしましたが、庄内は災害がなく、本当に幸せな所だ、と言っていました。

当町内会にも自主防災は組織されておりますが、十一年前に実施した以降は何も活動を行っていないのが現状であります。

つついといと何もしてなかったことを改め、今後の自主防災の組織のありかたや訓練の必要性を感じておりますので、役員と相談しながら早めに取り組みを実施したいと考えております。

三和 町内会

町内会長 相馬 一廣

三和自主防災会では、町内会の中を流れる用水路に金網をかけて、転落による水難事故防止の活動を二十五年位続けております。

毎年春、用水路に水が流される前の四月に、自主防災会の役員、消防団員が集まって用水路に金網を設置します。2m毎に木を渡し、金網を伸ばして釘でとめます。総延長は当初700m位でしたが、現在はコンクリート蓋の設置が進んでおり、550m位になっております。

この金網で転落事故が防がれた事も分かっているだけで数回あります。

十月下旬には、また、同じメンバーで撤去します。冬期間は除雪があるため年中設置という訳にもいかず、地道な活動ではありますが、代々引き継がれており、これからも悲惨な水難事故防止のため活動を続けていきたいと思っております。



鶴岡市消防署 藤島分署より



鶴岡消防
マスコット
てんじんくん

火事・救急・救助
局番なしの 119

新しく変わった心肺蘇生法

「新ガイドライン2010」

心肺蘇生法とは呼吸が止まり、心臓も動いていない人に行う、呼吸及び循環の補助の方法です。

その手順として救急財団からガイドラインが示されていますが、おおよそ5年ごとに新しい手順に改正されます。

この度の改正では、人工呼吸よりも先に胸骨圧迫をいち早く開始する様、示されました。手順については下図に示した通りですが、いくつか重要なポイントを説明します。

周りの人に助けを求めた後に行う呼吸の確認は、顔を離し胸と腹部の動きを見て「普段通りの呼吸か」を10秒以内で確認します。その後、胸骨圧迫をすぐに実施します。胸骨圧迫の

深さは胸が少なくとも5センチ沈むまでしっかりと圧迫すること。テンポは少なくとも1分間に100回の速さで行う事となります。



②助けを求める



①反心の確認



⑤胸骨を圧迫



④呼吸を見る



③119
通報と

AED
取り寄せ



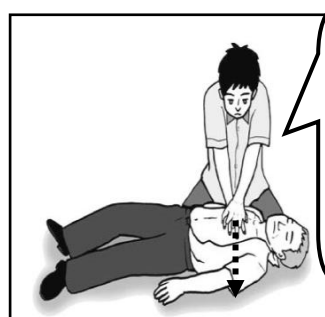
⑧パッドを貼る



⑦AEDの電源を入れる



⑥人工呼吸(出血等の理由で出来ない時は省略可能)



⑩胸骨圧迫を再開



⑨傷病者から離れて

ショックボタンを押す

藤島分署ではここで紹介した心肺蘇生法(訓練用的人形や訓練用AEDを使って)の講習をはじめ、各種応急手当の講習依頼を随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ 藤島分署

☎ 64-21139

梯子乗り・纏振り隊 「火消し魂」見参

若手隊員の熱い想い

梯子乗り、纏振りは梯子の上に乗る演技者に注目が集まりますが、鶴岡市消防団藤島方面隊の梯子乗り、纏振り隊は、一人で演技はできません。梯子を支える多くの支え手、「ヤー！ヤー！」の掛け声があつて初めて成り立つものです。これぞ力を合わせて地域を守る消防団の形と思うし、出初式や演習などでは良い演技ができる様に頑張つていきたいと思ひます。

この伝統のある梯子乗りですが、この度ひとつつ転機を迎えます。それは安全帯を付けての演技披露になると言う事です。これまで方面隊の象徴、火事に負けない心意気で演技をしてきましたが、安全の事を考え付ける形になりました。こんなもの付けなくても大丈夫。付けるとかえって邪魔になり危ないのでは？との思いもありましたが、

安全第一、世の中の流れとして付ける事にしました。

また、安全帯を付けたからと言って、梯子乗りの心意気、無火災の気持ちは変わりません。

これから梯子乗りの演技披露にあたり安全帯を付けた形になりますが、是非消防団の心意気として応援して頂ければと思ひます。

(梯子乗り隊員 太田晃二)



梯子乗り 代表この一年

安全帯を使用する事になりましたので、それに付いて思うことを・・・

安全帯とは高所作業をする際に、転落事故を防ぐ命綱の事です。私の個人的な考えでは、精神的な意味で、梯子乗りには不要、無用であると思ひます。ただ、安全帯を使用するという事と、落ちる、落ちないは別話であり、これまでと何も変わらないと思ひます。今後も梯子乗りを続けると私は強く思ひました。

鶴岡市各地から梯子が立ち演技を競い合う。安全帯が導入された事で、そんな日が来るのも近いかも知れません。そうなったら、やはり負けたくありませんのでしっかりと練習を行いたいです。今のところ安全帯を使用した練習を行っていますが、いかにして技と業の間に安全帯の付け替えを組み合わせるかが課題となってくるという感触です。これからの技を磨き、続けていきます。

(代表 原田 正彦)

隊員名簿

■梯子乗り、纏振り隊■

部長 栗田 幹

■梯子乗り隊員■

代表 原田 正彦

飯鉢 哲夫、石川 安彦

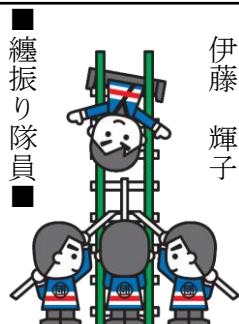
齋藤 直八、小野寺一貴

島 博之、本間 丈裕

太田 晃二、齋藤 謙介

我孫子 純、小林 圭二

伊藤 輝子



■纏振り隊員■

代表 板垣 一紀

菅原 和彦、高橋 大輔



鶴岡市消防団 女性消防隊より

救急救命

講習会より

藤島地域の地区毎に、毎年夏に行っている、救急救命講習会について感想を寄せていただきました。

藤島公民館
斎藤 耕紀

藤島公民館では青少年育成協議会との共催で、藤島地区住民対象の救急講習会を毎年夏に行っています。

子供の夏休みが始まる7月25日、約20人参加して、鶴岡市消防本部の藤島分署員と女性消防隊の指導のもと、人形を使っての心肺蘇生法やAEDの操作方法を実習しました。

倒れている人に対する意識確認、119要請、呼吸確認、そして胸骨圧迫（心臓マッサージ）と人工呼吸、



救急車が到着するまでの時間が、あなたに与えられた「大切な人を救うゴールデンタイム」です。この指導に、参加者の心構えを新たにしました講習会でした。

◆ 心肺蘇生法の流れ

「反応」を確かめる

「応援」を呼ぶ

119番通報 / AED依頼

「呼吸」をみる

「胸骨圧迫」

※強く（成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3）

※早く（少なくとも100回/分）

※絶え間なく（中断を最小にする）

※圧迫解除は胸がしっかり戻るまで

「人工呼吸」

※人工呼吸ができないときは、胸骨圧迫のみを続ける心肺蘇生（胸骨圧迫30回+人工呼吸2回）を繰り返す

AED装着

心電図の解析、音声案内に従い（電気ショックは必要か？）

「必要あり」

電気ショック 1回後、ただちに胸骨圧迫の再開（心肺蘇生を繰り返す。胸骨圧迫30回+人工呼吸2回）

「必要なし」

ただちに胸骨圧迫の再開（心肺蘇生を繰り返す。胸骨圧迫30回+人工呼吸2回）



地域の皆様へ

私達は応急手当普及員の資格を取得しています。これまで以上にこの活動に力を入れ、皆様のお役に立ちたいと思っています。また同時に私達の活力向上にも繋がると考えています。

『私達一人一人の手で
命のかけはしを』

班紹介

第四分団第二部第四班
「地域防災との連携」

班長 澁谷 泉

私たち下通班は、団員8名、若手揃いの一人一人が信頼できる頼もしい面々で、毎月定期的に有事に備え、小型ポンプ操作訓練を行い、消防活動に努めています。

今年度、9月2日に当町内会で秋季総合防災訓練が行われ、防災無線を使った避難訓練、心肺蘇生法、初期消火訓練、炊き出し訓練、消防団による大規模防衛訓練を通して、日頃からの防災に対する意識の再確認ができた良い機会となりました。

長沼地区は、水害に見舞われる事が多い地区で今年度、長沼地区5ヶ所に排水ポンプが設置されていますが、なるべく使用する事がない事を願いたいものです。今後も自主防災会と消防団が連携し、地域の防災力強化に努めていきたいと思っています。

第四分団第三部第一班
「こけがらの消防団」

班長 高橋 満広

私たちの班は、自動車ポンプを所有しています。自動車ポンプという事で火災、水害、各消防訓練、各消防活動と色々な場面において、出動を求められます。

特に、ここ数年は水害での出動が多く、全身が濡れになりながら徹夜での消防活動が何回もありました。しかし少子化の波が、わが班にきているのが現実です。ここ何年も欠員が続いている状態です。

各団員ともに協力し助け合いながら、地域の人々を守りたいという気持ちで活動を続けています。

これからも地域の人々を守るために、これまで以上に気持ちを引き締めて各訓練、活動に励んで行きたいと思っています。

最後に団員不足については、今後の課題として検討していかなければならないと思っています。

4-3-1 (表小路)



4-2-4 (下通)



1/12	9/1	8/4	6/15	5/26	4/13	鶴岡市消防団事業予定	1/4	9/8	7/7	5/25	4/21	4/7	藤島方面隊事業予定
鶴岡市消防出初式	山形県鶴岡市合同総合防災訓練	消防操法庄内支部大会	鶴岡市水防訓練	鶴岡市消防団春季消防演習	鶴岡市消防団入団式	鶴岡市消防団事業予定	藤島地域消防出初式	藤島地域総合防災訓練	藤島方面隊操法大会	藤島方面隊春季消防訓練	初任消防団員研修会	辞令交付式	平成25年度

■ 広報委員長 ■
栗本 隆司

■ 広報委員 ■

- 加藤 英明、阿部 雅弘
- 山口 重晴、武田 幸士
- 叶野 哲、高橋 守
- 工藤 勇人、小野寺 寛
- 押井 和春、石川 聡
- 太田 奏、坂本 巧
- 澁谷 光志、近藤 隆光
- 阿部 美代、伊藤 輝子
- 太田 伸一、加藤 秀晴
- 五十嵐 智之

【委員長からの一言】

藤島方面隊広報誌「ひのみやぐら」を愛読して頂きありがとうございます。また日頃より消防団活動にご支援ご協力頂きまして心より感謝申し上げます。

平成24年度を振り返ってみると8・9月の猛暑では熱中症により体調を崩す方が多い年だったと思います。又、消防団活動も今年度より一元化ということで藤島分署と事業を行う事となり、この広報誌も合同で作成しました。今後もこの広報誌で私達の活動と火災予防等をお知らせしていきたいと思っています。